

## 2-27-1 金森左京家 白崎陣屋址

ここは金森家の分家である金森左京家の陣屋址である。金森家の初代である金森長近は信長・秀吉・家康に仕えた戦国武将で、信長の時代には越前大野を支配する大名となり、大野城の築城や大野の町づくりに努めた。秀吉に仕えた長近は飛騨国 38,700 石余を統治し、大野での経験をもとに高山城築城や高山の城下町の整備に尽力した。また長近は関ヶ原の戦いでは東軍に属し、家康からその戦功により加増を受けた。

その後元和元年（1615）金森家第 3 代領主となった重頼が家督を相続した際に、重頼の弟である重勝は領内より 3,000 石を賜り分家し、代々金森左京と称した。金森左京家はこのように領内分知により成立し、のち旗本となった。これが金森左京家の始まりである。

100 年余にわたり飛騨国を支配した金森本家は、元禄 5 年（1692）ついに<sup>かみのやま</sup>出羽国上山（現山形県上市市）へ転封となった。その 5 年後には美濃国郡上八幡（現岐阜県郡上市）へ移り、左京家は本家と共に移動をした。

郡上八幡では本家第 7 代<sup>よりかかね</sup>金森頼錦の代に領内において、郡上宝暦騒動（郡上一揆）が起こり、その責任を追及された金森家は宝暦 8 年（1758）に改易となり、所領没収となった。しかし幕府は金森家が信長以来の名家であり、その断絶を惜しみ、分家である左京家に名跡を継がせ、3,000 石をそのまま下し置かれた。

翌年の宝暦 9 年、左京家は新たに越前国南条郡（白崎村・清水村・牧谷村）、今立郡（大手村・西尾村・上大坪村・<sup>かや</sup>萱谷村）の計 7 か村、およそ 3,000 石を賜った。ここに越前における金森左京領が成立し、この白崎村に陣屋が建てられた。金森左京家第 4 代領主<sup>ありてる</sup>可英がこの地に入府したのは、明和 4 年（1767）のことであったという。

金森左京家は旗本のうち交代寄合に列せられ、江戸城表書院で将軍に拝謁できる表御礼衆 20 家の 1 つに数えられた。隔年での参勤交代が義務付けられ、この陣屋から行列が出發し、江戸屋敷まで参勤交代が行なわれた。左京家は、まさに大名並の格式を持っていたのである。

この陣屋において明治維新まで 8 代 100 余年にわたり、左京家の知行統治が行なわれた。その後大正 14 年（1925）5 月、左京家の厚恩に感謝して、領内牧谷村の宮地<sup>ぎへい</sup>義平が中心となり、この場所に「金森家之碑」が建立された。

陣屋は明治初年には取り壊され、碑の前の鬼瓦や庭の泉水、築山、井戸の跡などにその面影を残している。

説明板より